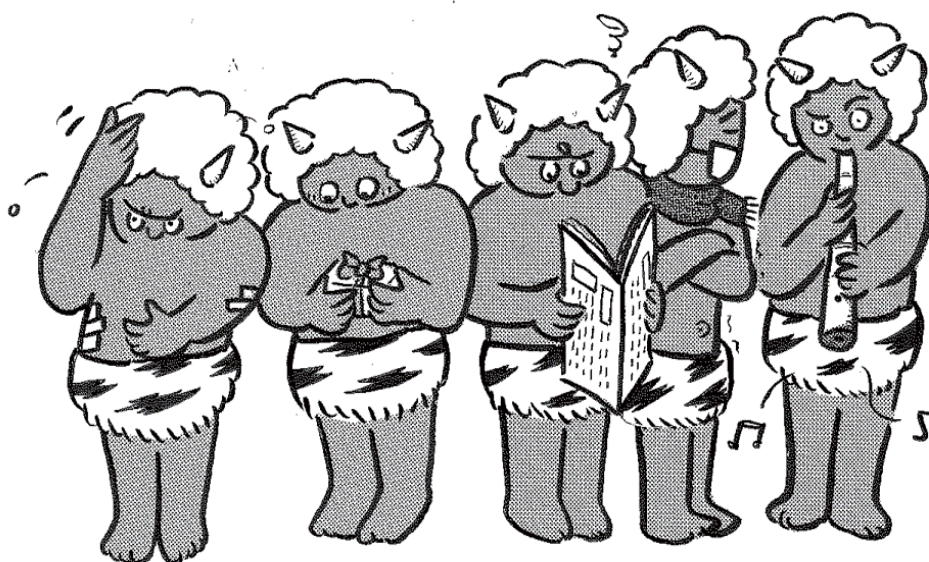


# ちばししゃ通信

Vol.16



画 くさびら八郎

## 【トピック】

- |                     |               |
|---------------------|---------------|
| ♪ 「寄り添うケアのはじまり」     | ♪ つれづれなるままに   |
| ♪ 「心地よい関係性のバランス」    | ♪ 各種イベント案内    |
| ♪ 私の子育て奮闘記          | ♪ “ときがね”なひととき |
| ♪ 「はい、よりそいホットラインです」 | ♪ 法人からのお知らせ   |

## 寄り添うケアのはじまり

『愛し合っていた二人は別々の場所で最期を①』

「二人は若い♪」

「お母さんと呼べば、お母さんとお応える。山のこだまの嬉しさよ♪」

これは『二人は若い』の替え歌です。藤子さんはこの歌が大好きでした。

僕が藤子さんと出会った時、すでに藤子さんはかなり認知症が進行していました。殆ど会話はできませんでした。突然、一目散に歩き出したり、座りこむと梃子でも動きません。御主人の利雄さんと二人暮らし。利雄さんは藤子さんのことが大好きで片時もそばを離れることはありませんでした。

「私は藤子に沢山苦勞をさせてきました。最近はずっかり呆けてしまって話も出来ないけど俺は一生をかけて恩返しをしなといけない。俺が藤子の面倒をみるのが責任です」利雄さん

は、口癖のように僕達に何度も

話をされました。藤子さんは突然家から飛び出し、行方知れずなることも何度もありました。

そのたびに僕達は探し回りました。ある時、自宅から2.3km離れた所でやっと見つけることもありました。ある時は公園のブランコに乗ってらっしゃるところを見つけた時もあります。ヘルパーさんが食事の準備やお家の掃除で1日3回訪問をしていましたが、いらつしやらないことも度々ありました。

怒られ続けて

「このご夫婦の生活を支えたい」でもどうしたら良いのかわかりませんでした。

デイサービスを利用していただくことも考えました。でもお迎えに行ってもなかなか動かせません。たまたま車に乗って

ただいても、今度は車から全く降りようとされません。会話は伝わらないし、藤子さんがどうしたいのかわかりませんでした。

ある日、僕に近所の方から電話があり「話があるからとにかく出て来い」と言われました。僕は慌てて駆けつけました。すると「お前達はいったいどういうつもりなんだ。藤子さんをいつまであのままにしておくんだ。外にフラフラ出て回って交通事故にあつたらお前達は責任がとれるのか。早く老人ホームに入れる。みんなそう思っている。」と言われるのです。僕はその時、正直ビククリしました。

利雄さんと藤子さんのことしか関わっていなかったので近所の人に叱られる意味が解りませんでした。「なんで、僕が怒られないといけないんだらう？僕ら何も悪いことしてないじゃん」と思っていて、内心逆ギレしていました。僕はすぐに利雄さんに会いに行きました。

「利雄さん、近所の人が危ないから、早く藤子さんを老人ホームに入れなさいって言ってますよ。僕達が探して手続きをしますからそうしましょう」と

利雄さんにお話をしました。すると、「バカ！！なんで老人ホームに藤子を入れんならんのか。藤子はどうも無い。病気もない。あいつらの言うことなんか聴かんで良い。お前達ももう来るな！」と一喝されました。

あつちで怒られ、こつちで怒られ、僕は怒られっぱなしで何をどうすれば良いのか益々解らなくなりました。その時、藤子さんはそんな僕を見てニコニコ笑っていました。

解らない中での関わり

どうして良いのか解らなかつたのですが、とにかく藤子さんには毎日会いに行こう、とにかく一緒に居てみようと思い、しばらく毎日何度も藤子さんに会いに行きました。利雄さんの機嫌は相変わらずでしたが来るこ

とを拒むという感じではありませんでした。天気の良い日はとにかく外に出かけました。藤子さんの大好きなブランコに乗り、あの歌と一緒に歌い続けました。

「お母さんと呼ばば、お母さんと応える。山のこだまの嬉しさよ♪ お母さん、な〜んだい、空は青空、二人は若い♪」

あの時の笑顔は今でも思い出されます。僕もその時間がとても楽しくなり毎日会いに行くことが楽しみにになりました。老人ホームに入ったらどうなるのか？どんな生活になるのか？僕にはその時想像もつきませんでした。でも、今のこのままが良い。ずっと藤子さんと居たいと強く思いました。

どうしたら、藤子さんはニコニコしながら生活し続けられるのか？事故なく暮らしていけるのか？改めて考えました。「そうだ、宅老所だったら藤子さんにとって何かできるかもしれない」とその時、思ったのです。

それは、その2カ月ほど前、福岡の宅老所よりあいを見学に行かせてもらっていたからです。そこは住宅街の中の普通のお家でした。そこには、5〜6名のお年寄りが落ち着いて過ごしておられました。話しかけてもうまく話は通じませんでした。何故か穏やかに過ごしておられるのです。まるで自分の家のごしておられるかのように。僕自身も、なんかばあちゃんの家に戻ってきた感じで過ごすことが出来ました。藤子さんの為に、1日でも早く、よりあいのような場所を作りたい。

早速、古民家を探し、家主さんも快く理解してくださりお借りすることが出来ました。お金が無かったので改修なんかできません。まさにバリアフリーの普通の古いお家でした。5年程、誰も使っていないということもかなり汚れていました。スタッフや沢山の人の手伝いをもらい掃除をしました。

宅老所の準備が整い、藤子さ

んをお迎えに行きました。「車にスムーズに乗ってくれるのかなあ？乗ったとしても降りてくれないんじゃないかなあ？」不安を抱えながら僕はお迎えに行きました。しかし、その日、藤子さんはスムーズに車に乗ってくださいました。そして宅老所に着くと、いつもは全く車から降りようとされない藤子さんがトコトコと自分から車を降りてその宅老所の中に入っていけるのです。さらに、玄関を上がり中に入ると、いかにも自分の指定席がわかつているかのように準備していた椅子にちよこんと座り、テーブルに置いてあったお菓子をニコニコしながら食べ始めたのです。

この日から、藤子さんは昼間は宅老所で過ごし、夜は自宅という生活が始まりました。

## 黒石尚文（くろいわなおふみ）

高校卒業時、お金が全く無くて進路指導の先生から「消防士がいい」と言われ喜んで受験。しかし見事不合格。気を取り直し当時最も学費の安い福岡大学商学部を受験。まぐれで合格。お好み焼きを4年間焼き続け卒業。卒業後、東京の不動産会社に入社。2ヶ月で鹿児島弁しか使えないことを見抜かれ福岡支店に流される。1年後、フリーの不動産屋となり東京へ戻る。多くの方々にご飯を食べさせて貰いなんとか生きていたがある朝、突然、顔面神経麻痺になり帰鹿。リハビリの甲斐あつてか、無かったか1年程かかって今の顔。平成7年4月より福祉の仕事につく。翌年5月より宅老所活動を始める。平成19年6月加治木町で共生ホームよかあんべという小さな小さな事業所を開設。細々とやっています。平成22年5月よりトカラ列島宝島、北海道幌加内町にも関わる。



福祉絵本「おじいちゃん人気者」  
(1冊：300円)

## 心地よい関係性のバランス

## 第4回 自立した支援者の心のバランス

信頼と依存

信頼されることと依存されることは全く違う。でも、この違いがわかるようになったのはごく最近のことかもしれない。

誰かの役に立ちたいとか、誰かに頼りにされたいとか、そういう気持ちをもつことはそんなに問題ではない。誰もやりたがらないようなことで、でも誰かがやらねばならないことがあるば、それを買って出ることがそれ自体は問題ではない。私の仕事の仕方は、いつもそうだった。たとえ嫌な仕事でも、誰かの役に立つのであれば、誰かがしなければならぬのであれば、私がいよう、と。24時間365日、困った時にはいつでも駆けつけます。利用者が望むことであれば、できる限りのことをします。ぴっころはこんなスタンスです。ターゲットした。この姿勢がことさ

ら間違っていたようにも思えない。

福祉の現場には理不尽なことが多い。障害者だからという理由で我慢しなければならぬこと。支援者側の都合で生活が組み立っていくことが多いのも事実だ。それは確かに理不尽なこと。そういうことを減らしていきたいというのが、私たち福祉従事者の願いであり、ノーマライゼーションという言葉の中身でもある。だからこそ、がんばってきた。障害がなければ、好きに出かけられるのに、出かけられないなんて理不尽だ。障害のある子がいるからといって、行けない場所があるなんて理不尽だ。だから、支えよう。本当にそう思ってきた。脚光を浴びたいとか、褒められたいとか、そんなことは思いもしなかった。ただ、当たり前前の社会を願って

いただけだった。「だけだった」はずなのに、だんだんと何かが変化していった。

自分を見失う

私のまわりには感謝や賞賛の言葉がいつもたくさん集まった。「さすがぴっころさんね」「ぴっころさんでないとなめなのよ」。自分が思っていた以上に、頼りにされる喜びが大きかった。そして、だんだんと自分を見失っていったのだ。といつても、こういう言葉で天狗になったのではない。天狗になったのなら「嫌なやつ」と嫌われてすぐに気づけたかもしれない。そうではなく、こういう言葉に縛られていったのだ。いつまでも、期待を裏切らないことに必死になっていったのだ。自分の感情や、考えや、時代の流れや、そういうことの一切を麻痺させて、ただただ相手の期待に答えることに夢中になる私は、気がつくときすっかり依存されていた。そして、私もそうい

う相手に依存しきっていた。

自立した支援者として

信頼されることと依存されることの違いは、自立しているかどうかのポイントだと思う。「ぴっころの支援を信頼している」ということは、「信頼しているからずっとぴっころがなくなるからほしいとは思われない、あなたがいないからといって生きていけないわけではない」ということを意味している。しかし「あなたがいないと生きていけないからなんとかしてくれ」というのは、信頼ではない。支援関係というのは、確かに好むと好まざるとに関わらず頼り合う構図となるものだ。しかし、そこには自立が前提となる。それぞれがそれぞれの人格をもち、それぞれの人生をもち、別個に生きる主体であるという前提。だから、どんなに信頼し合っている、最終的には一体ではないということをお互いが理解する必要がある。

相手のために人生を捧げることが素晴らしいと思う人もいるかもしれないが、それがもし、相手の生きる力を削ぐことにつながっているとしたら、それは私たちの目指すものではない。私たちはいつでも、相手が私なしでもたくましく生きていくことを喜ぶ立場にあるのだ。

頼りにされる人を目指すのは、当たり前のことかもしれないが、頼りの中身が信頼なのか依存なのかを見極めなければ、頼りがいのある人を目指しているつもりで、あなたなしでは生きられない依存者をつくり続けてしまうこともある。そして、その状況にさらに自分が依存しないよう、心のバランスを保つことが必要だ。自立した支援者として。

※この原稿は、Juntos (フントス) C.L.C 発行の情報誌からの転載です。著者と発行者承諾のもと転載しています。

## 大友愛美 (おおともよしみ)

北海道生まれ北海道育ち、生粋の道産子です。大学卒業後、最初の福祉現場、知的障害者入所施設では地域と施設をつなぐコミュニケーションワーカーのような仕事をし、その後は地域で生きる人たちを支える仕事をしました。どちらの現場でも自閉症の人たちとの出会いが多く、たくさん悩み、たくさん学びました。最近では、共生社会の実現を目指すNPO法人での仕事や、福祉の担い手を育てる場(学校や研修)での仕事をしつつ、自閉症など地域で生きにくい状況を抱えた人たちの相談や支援の仕事もしています。他の多くの人と違っていても排除しない、されない社会の構成員になるためには、学ぶだけではなく、いろいろな人と一緒に暮らす練習が必要なのかもしれない…、と感じている今日この頃です。

『びっころ流』

ともに暮らすためのレッスン

〈1,600円十税 絶賛販売中〉

※お求めになりたい方は、当法人までご連絡ください。



## 私の子育て奮闘記

「試行錯誤の日々2」

前号までお伝えしてきたように、長男は、先生方やクラスメイトのおかげで、学校での生活が落ち着いてきたため、次男の療育を行いたいと思った。

さて、うちの次男は、笑顔が素敵な子。ただ、いろんな面で遅れを抱えている。タイプで分けると、長男とは全く違って、いつも動いている(多動)し、喃語でしゃべってはいるが、他の子とコミュニケーションをとるための言語が話せない。飛び跳ねなど自己刺激行動等もある。この子が、他の子や社会の中で、生きていく力をどのように伸ばしてあげられるかが、私の関心ごとの一つだ。

保育園に、家庭療育をしたいため午後から登園したい旨をご相談したところ、快く応援してくださいました。それからは、前日にプログラムの計画を立て、実践をし、記録する日々。ABAの先生から教えていただいた身体模倣や微細模倣、要求語の練習等、色々行ってみた。それから、スーパや電車に乗るなどの社会的な場面に連れて行って、騒がずに歩けるかなどを行い、良いと思われるものは何でもやっている。意気込みすぎて、次男に嫌がられ

た日もあった。徐々にいろいろな模倣ができるようになり、園の先生からの報告でもほかの子の遊びの近くに自分から言ってみたり、声を出して笑う場面が増えたり等という報告があり、うれしく思った。

一緒に、療育の時間をとり、そしてそれを積み重ねていくことで、私は今まで、長男以上に、次男とのかかわりがなかったのだと気づいた。食事、お風呂、着替え、寝る準備、そこに伴う行動をしていただけで、次男が今どう困っているのか、うれしいのか、悲しいのか等、きつと本人なりに発していたであろうことも、受け止めたりすることなく、目の前にある家事や仕事等をこなすことで精一杯だったのだ。もちろん、それが発語がない直接な原因とは思わないが、でも、もつともっと早くこの時間を取ってれば、コミュニケーションに困難を抱えた次男への色々な働きかけをできたのではないかと後悔をした時期もあった。

それでも、日々は続く。後悔をしてもしょうがない。今できることを一つひとつやってみようと思いい、実践する日々だった。

(おとめ)

発達の違いを持つ2児の母。16年続けた社会福祉の仕事を経て、家庭で子どもの力を伸ばすこと、地域で生きることを考えながら日々奮闘中

# 『はい、よりそいホットラインです』

その二 どんな相談がくるのでしょうか

さて、読者の皆さんに質問です。よりそいホットライン（以下HL）にはどんな電話相談がくると思いますか？

- ① 将来のことを考えると気持ちが悪くなる
- ② 母の彼氏の暴言が心に残り辛い
- ③ 気持ちが落ちてきているので誰かと話したい
- ④ 夫の行動が許せない
- ⑤ 友人とすぐ喧嘩になっちゃって、どうしたらよいか
- ⑥ 職場の男女関係に困っている
- ⑦ 憧れと恋はちがいますか

どうでしょうか？ じつは、①～⑦の全てが相談として寄せられるのです。

HLの電話相談を開始してから、こうした相談、さらに想定外の相談内容も日々飛び込んできています。

こうした相談について、当初相談員の中には、

- 「友達に相談すればいいのに」
- 「上司に相談すればいいのに」
- 「夫婦で話しあえばいいのに」
- 「近所で話しあえばいいのに」
- 「この相談解決しないよね」

と相談してくることに疑問を感じる人や戸惑う人もいました。

そうなのです。おそらく先に記載した相談内容・困りごとは、身近な人間関係の中で、言葉にして会話や対話をしていく内容なのです。

ただ、それができる人がいない！環境がない！。つまり、相談者の共通点をあげると「孤立している」ということです。

「どの集団（例：家族・職場・学校など）にも属しておらず孤立している人」「集団に属してはいるが孤立している人」の存在が浮かび上がってきました。

次回は、そんな困りごとをHLはどのようにくみ取り、どんな対応しているのかをご紹介します。

一般社団法人

ひと・くらしサポートネットちば

よりそいホットライン担当

桐谷 陽子



フリーダイヤル つなぐ ささえる  
0120-279-338  
よりそいホットライン

24時間 通話料無料

心の悩み、学校生活、セクシュアルマイノリティの悩み、法律の悩み、子どもの悩み、人間関係の悩み、職場の悩み、生活の悩み、仕事上の悩み、外国人住居の悩み、DV・性暴力の悩み

CLICK!

## つれづれなるままに

毎年、立春が過ぎても寒い日々が続くが、今年はずでに梅の花もほころび始め、風の匂いにも春の気配を感じる今日この頃である。

先日、千葉市で開催された、千葉県高齢者福祉セミナーに参加させて頂いた。千葉県主催で、研修受託団体は県内のグループホームや小規模多機能ホームの会員で組織する「ちば地域密着ケア協議会」によるもので、自分も例年出席しているが、回を重ねる毎に内容が充実してきていると感じる。

今年には宮城県在住で、若くして認知症を発症した当事者と、支援する事務局及び千葉県内の認知症支援に関わる団体や事業所等の関係者による、トークセッションやシンポジウムで意義深い講演であった。特に当事者である、丹野智文さんは39歳という若さでアルツハイマー型認知症と診断され、今日ま

での2年間の家族や社会での生活を、当事者本人の口から熱く語られたことから、向き合った

多くの問題の重さを自分の中で受け止めることが出来た。丹野さんは、仙台市内のトヨタ系ディーラーの営業マンとして活躍されている最中の出来事であり、認知症の発症は、このまま仕事を継続するのは困難であり、一般的には退職を余儀なくされる状況にあったのではないかと。丹野さんは奥様と子供二人の4人家族で、新たな就業ということは難しく、様々な局面に遭遇することになるのではないだろうか。ご本人の口からも語られたが、今の社会の仕組み・制度の中でこのご家族を救い上げることはとても困難な事例であろう。

セミナーには、宮城の認知症ケアを考える会で活動されていた井上博文さんも参加し、丹野さんとの関わりから、「当事者による当事者のための相談窓口おれんじドア」を立ち上げた方

である。

聴講していて感じたことは、丹野さんの場合は、車の販売会社での営業成績がトップクラスで、人との関わり方「コミュニケーション能力」に天性のものがあると感じるとともに哲学がしっかりしていた。

その様なポジティブ思考と行動・努力が自らの運を引き寄せ、社長から「戻って来い机を運ぶ仕事でも何でもあるだろう」というお言葉を頂き、事務仕事への配置転換で復職し収入の途を得るようになった。

このプロセスの中で、病院の先生、認知症の家族会や大学の先生等、沢山の方々との出会いから希望を見出し、あるセミナーを通じて井上さんと巡り合うことになる。この様に幾つもの良い偶然が重なり遇って現在の恵まれた環境へと極めて珍しいケースであるが、福祉に限らず先進的な事例は、この様に、点から線そして面的なつながりへと変化していく中で生まれて

くるものではないか。

研修を通じて振り返れば、この事例を稀なケースとして終わらすことなく、本会も東金市内の認知症の方の人や、障がいを持つている人たちの横にいて、一緒に失敗したり、悩んだり、考えたりしながら共に進んで行く、伴奏型支援をしっかりと取り組んで行くことが、とても大切なことではないか。

最後に、「おれんじドア」の実践を聞き、本会も認知症や障害者の方々、社会の仕組みや制度のはざまから抜け落ちてしまいう人達と一緒に、次の場に向かう「ドア」の役割と機能を果たしていきたいと感じた。

(総合施設長 齊藤 操)



丹野 智文さん  
(若年性認知症・当事者)

きもの地サロン	ヨガサロン	穂垂るの会
<p>着なくなった着物をほどこき、アクセサリー、ポーチ、バッグ、タペストリーなどの小物から服まで、その人に合わせてリメイクするサロンです。</p> <p>開催日：3月14日（月） 3月28日（月）</p> <p>※興味のある方は、連絡ください。 鶴嶺の家（50 - 0285）</p>	<p>健康管理、仲間づくりにヨガをはじめませんか？</p> <p>旧道の岸本薬局の斜め向かいにある「ありさ」の2階で開催中。</p> <p>開催日：3月3日（木） 3月16日（水）</p> <p>※興味のある方はご連絡ください。 ありさ（50 - 0362）</p>	<p>介護している方々が集まって日々の苦労話等を気軽に本音で話し合う会です。</p> <p>開催日時：3月10日（木） 13:30～15:30</p> <p>会場：ふれあいセンター 経費：200円（お茶代） 主催・連絡先：穂垂るの会・井上 (090-7171-1701)</p>

## ときがね・街かど福祉塾

## コミュニティケアワーカー講座

「ときがね・街かど福祉塾」は、東金・山武地域の市民や福祉・介護・子育て・まちづくり関係など、人に関わる活動や仕事をしている人たちの学習の場、思いの共有の場、新たな縁（えにし）の場づくりとして実施しています。

東日本大震災以降中断していたものを、昨年10月より、月1回ペースで実施しています。ぜひ、ご参加ください。

（問合せ先：ちば地域生活支援舎  
Tel:0475-53-3630）

《第7回》  
「福祉との出会い・・・  
総合相談支援と生活困窮者支援を通じて見えてくるもの」  
日時：平成28年3月29日（火）  
18:30～20:30  
会場：東金市中央公民館・第3会議室  
講師：渋沢 茂  
（中核地域生活支援センターひなた所長）  
定員：30名  
対象：興味のある方ならどなたでも。

主催：NPO 法人ちば地域密着ケア協議会  
会場：千葉県経営者会館・研修室  
定員：30名  
参加費：無料  
申込方法：お電話でお問合せください。  
連絡先：043-244-2601 / 大石

平成28年2月24日（水）  
《第8回》 9:30～12:30  
「地域連絡会と自治体の協働の取り組み」  
講師：黒岩尚文（浪漫・代表）  
《第9回》 13:30～16:30  
「地域密着型サービスのあるべき姿」  
講師：川原秀夫（コレクティブ・代表）





# ときがね な ひととき

鴉嶺の家（高齢者・障害者）

早いもので新年を迎え1ヶ月が経ちました。今年は、エルニーニョのせいもあり、沖縄でも雪が降る異常気象。そして寒さが増しています。毎朝布団から出るのが大変です。

そんな中、先日、天気の良い日に利用者さんと八鶴湖まで行ってきました。いつもは、声をかけても出掛けない利用者さんも一緒に行き、スタッフと楽しそうに会話をして笑顔を見せて下さいました。また、「散歩いいね」と喜んでくださった

り、テンションが上がってジャンプをする方もいました。いつもとは違った様子を見ることが出来て嬉しかったです。

また、別な日には、利用者さんとお菓子作りをしました。利用者さんは「楽しい」と笑顔を見せてくれたり、「美味しい」と喜んで食べてくれました。スタッフも自然と笑顔になりとても楽しい時間を過ごすことが出来ました。

まだまだ、寒い日は続きますが、寒さに負けない笑顔あふれる日々になりたいと改めて感じました。

鴉嶺の家（児童）

賑やかだった冬休みも終わって学校が始まりました。午前中から利用する子どもが少なくなつたので、午前中から利用する子ども達は、スタッフと遊ぶ機会が増えています。また、時々鴉嶺の家（高齢）へ遊びに行くこともあります。可愛い笑顔

振りまいてくれるので皆さん笑顔になり、場が和み癒されます。

学校を終えたお友達が帰ってくると午前中からいた子ども達も嬉しそうで、おやつをさつさと食べて元気に遊んでいます。やっぱ子ども達は同年代のお友達と遊ぶことが楽しいようです。

また、寒くなってきた公園へ遊びに行くのがツラくなってきたスタッフですが、子ども達は寒さなんて関係ないようで「公園へ行こう！」と手を引き玄関へ連れて行きます。公園に着くといつまでも走りまわり、遊具で遊んでいる姿を見ると「すごいなあ、さすが子どもは風の子なんだな」と思います。スタッフも子ども達を見習っていきたいですね。



子ども支援センターぽけっと

霜が降りるほどの寒さがやってきました。そのため、お部屋の中で過ごすことも増えてきたぽけっとの子ども達。先日、みんなの大好きな電子ピアノがついに壊れてしまいました。どうしよう!?!と思索していると、法人内のスタッフの一人が、「家にエレクトーンがあるよ。よかったら使いますか!」と一言、次の日にはど〜んと立派なエレクトーンがやってきました。

子ども達も遠くから見たり、触ったり、音を出してみたりと興味津々…。そのスタッフが弾くと、あまり音楽には興味がないのかなと思っていたR君が笑顔で近づき曲を聴いたり、一緒に音を出したりしていました。その後も、業務の合間をみては、エレクトーンを弾きにに来てくれます。そして、その度にニコニコするR君でした。

年明けといえば初詣ですね。

先日、移動支援を利用し、Aさん、Bさん、ヘルパー2人、合計4人で電車で揺られ成田山新勝寺に行ってきました。1月17

日に行ったのですが、さすが新勝寺！17日でもまだ賑わいを見せていました。Aさんは自分のお願いごとをそつちのけで、「○（スタッフの名前）が幸せになりますように。」「○○が元気な赤ちゃん産みますように」と次々にちば舎のスタッフの名前をあげ、参拝して下さいました。

「大吉をひくぞ」と意気込んでおみくじをひいたAさん。大吉じゃなかったらどうしようというヘルパー2人の心配をよそに見事大吉をひきました。ちなみにBさんも大吉でした。なんだか素敵な1年になりそうです。

平成28年、2016年と書くことによく慣れてきた今日この頃です。今年は、リオでの「オリンピック・パラリンピック」の年ですね。

放課後等デイサービスや児童発達支援事業所をのぞいてみると、未来の選手たちが楽しそうに遊んでいます。この力をこの動作を「走る」「打つ」「漕ぐ」「泳ぐ」等に変換したらすごい選手になるのになと思う子ども達。そんな子供たちにいつもパワーをもらっています。

パソコンに向かうことも少なくなない中、ご家庭や事業所を訪れて、皆さんの活躍している姿を目にすることは計画書への反映だけでなく、私たち自身も元気になるのです。私たちは、皆さんのお役に立てているでしょうか？そう問いかげながらも、自分が楽しむ時はしっかりと楽しんでいきます。

本格的に寒さが厳しくなり、こたつがいつそう恋しくなってきた1月、皆様いかがお過ごしでしょうか？

お正月休みも終わり、ハンドワークは1月6日より営業を始めています。

新年の第一声は「元気〜？」の明るい声でスタートしました。鼻風邪や喉風邪をひいている人がポツポツと見受けられましたが、皆さんゆっくりとお休み出来たようで「○○に行った」「○○に会った」等々、沢山の楽しかった思い出（お土産話？）を楽しそうに話をして下さいました。

休み明けの作業は、皆さんのんびりペースな取り組みでしたが、最近では動物ペン立ての注文が入り、ペン立て作り作業やバレンタインギフト作りに黙々と取り組んでくれています。

寒い日が続きますね。カバの家の庭にはモグラが住んでいます。トンネルを掘った土を地面に出しています。毎日のように一つ二つと山ができていますが、このところ寒さでじっとしているのか山ができていません。春はもう少し先ですね。

さて、最近イベント等の大きな販売はありませんが、日々、私たちのパンを楽しみにしてくださっている方々のために、寒い作業場で手が荒れながらも頑張っています。

サツマイモパン、カボチャパン、甘栗パンは、1月で終了しました。2月からは、いちごあんパンときなこパンが始まります。ぜひ、ご賞味ください。

今年も、みんなで頑張つて良い年にしたいと思います。どうぞ、よろしくお願い致します。

ありさは、雑貨&喫茶の店舗を構えています。他にも色々なお仕事をしています。

そのお仕事一つひとつについて回るのが、事務仕事。特に請求作業です。ありさにはパソコンを得意とするメンバーがいます。パソコンによる入力作業を中心となつて行つてくれているKさん。ありさに勤めるようになって4年、学校で教わつたのはワードの入力が中心で、エクセルの様な表計算は、ほとんど初めてでした。はじめは、2種類の入力の仕事から始め、今では6種類の入力を覚えて完璧にこなしています。しかし、一度覚えた作業でも、色々な理由により入力フォームを作り変える事がしばしばあり、その度に覚え直します。また、新しい仕事が増える度に業務に合った集計表と請求書を作るので、新しい入力方法を覚えてもらわなければなりません。どんどんスキル

アップするKさん!! 来年度は消費税税率も変わるので、また変更が!? 一緒に頑張りましょう!!

### 五根の家

#### ◆小規模多機能ホーム

1月も終わり、寒さも一段と厳しくなってきました。室内と外の温度差が激しく体調管理が難しい季節でもあります。

長年の経験から、お年寄りの方の中には、寒暖の差に気付くのが遅れてしまう方や、気づいてもそれに伴う衣服の調節が難しい方がいます。暖かい室内で重ね着をしたまま、汗をかいて風邪をひいたりしないように周りで気を配る事が大切です。

ある利用者の家は、昔ながらの農家の家で、土間のような場所もあることからとても寒いのです。そのため本人は、習慣から洋服を沢山着込んでいます。ズボン関係だけでも5〜6枚履き、上はカーディガン・下着など6〜7枚着ています。自宅で

は丁度良いのですが、五根に来家されると、中は暖房が効いているので、その格好では暑く、汗をかいてしまいます。スタツフが声掛けをし、衣服の調節をして頂きますが、しばらくすると脱いだ服を「寒い、寒い」と着て、また汗をかき、その繰り返しを何度かしています。

これからはインフルエンザなど体調を崩す方が出てくると思うのでスタツフも含め、体調管理に気を付けたいと思います。

#### ◆グループホーム

今年の年初めは、特別な体調不良の方はおらず、穏やかな年初めとなりました。入居者のご家族が来られて、皆さんがとても喜んでいたのが印象的でした。中でもYさんは、休まれるときに「今日は良かった。ありがとう。」と話してくださいました。ほんの少しの言葉と言葉の絆が仕事を続けていてよかったですと思える今日この頃です。出来る限り入居者のニーズに応え

られるように努力をしています。それでも上手くいかない時があり、モチベーションが落ちてしまうことがあります。そんな時、入居者の方の笑顔や一声が、私たちの励みになり、「頑張ろう」という気持ちになります。

これから季節は春に向かいます。ひな祭りなどの季節折々の行事があり、入居者の皆さんも楽しみにしていますので、体調管理をしっかりしながら、笑顔が広がる穏やかな春を迎えたいと思います。



営業：午前10時～午後8時

場所：東金ショッピングセン

ター「サンピア」内1階

(ステージコート脇)

内容：福祉、介護、子育て、

ボランティア・市民活動

に関する情報提供、相談

★福祉・介護・子育て等に

関する情報の掲示・配布

をご希望の方は、本会ま

で相談ください。

詳しくは、総務・企画課まで

ご連絡ください。

(0475-533630)



《NHK歳末たすけあい

助成決定！(車椅子2台)》

千葉県共同募金会様から、「平

成27年度(第65回)NHK歳

末たすけあい」の配分として、

鶴嶺の家(鶴嶺通所介護事業所)

に、車いす2台分を助成頂くこ

とになりました。

10数年使用してきた車いすの

劣化が激しいことや利用するか

たの重度化が進む中とてもあり

がたい助成でした。

以前から使用しているもの同

様に大事に使って行きたいと思

います。ありがとうございます。



《賛助会員の募集》

私たちの活動を支えてくださ

る賛助会員を募集しています。

賛助会費は、一口3,000

円です。賛助会員の皆様には、

毎月19日に情報誌をお届けしま

す。また、当法人の各種イベン

トや企画のご案内もいたしま

す。何卒よろしくお願いいたし

ます。

詳しくは、総務・企画課まで

ご連絡ください。

(0475-533630)

ボランティア募集

趣味や特技、仕事を通じて身

につけたスキル、体力等、自分

らしさを生かしたボランティア

活動をやってみませんか？

ボランティア活動を通じて得

られる効果は無限大です。

子どもや障がい者、お年寄り

等、人に関わる活動に興味のあ

る方は、ぜひ当法人にご連絡く

ださい。

(0475-533630)

編集者のつぶやき

「ちばしゃ通信」というこのネーミング！なんとかしたい！  
読者の皆さん、何かよいネーミング又はネーミング変えるため  
の方法についての何かよいアイデアはありませんか？

よいアイデアやネーミング(案)のある方は、ぜひご連絡  
ください。(jerry)

時間が経つのが早く感じる今日この頃です。忙しい中でも利  
用者さんと少しでもお話ができるとホッと息をつくことができ  
、穏やかな気持ちになることが出来ます。いつもたくさんの  
笑顔をありがとうございます。(W)



ちばしゃ通信  
(Vol.16)

発行日：2016年2月19日  
発行元：ちば地域生活支援舎  
編集責任者：宮下・太齋  
連絡先：0475-53-3630